

令和3年度天皇杯受賞者受賞理由概要
園芸部門

最高品質の追求に「創意」と「努力」を紡ぎ続けた100年、そして未来へ

○氏名又は名称 きたみらい玉葱振興会（代表 加藤 英樹）

○所在地 北海道北見市

○出品財 経営（玉ねぎ）

○受賞理由

・地域の概要

北見市は、北海道東部に位置し、夏期は30℃を越す真夏日となる一方、冬期はマイナス20℃前後まで冷え込む。1日の中での寒暖差も大きい内陸性気候であり、降水量については年間800mm程度と、全国的に見ても少ないことが特徴。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

平成15年に8つのJAが合併し、JAきたみらいが誕生したことに伴い、各農協単位で存在していた玉葱振興会が結集し、きたみらい玉葱振興会が誕生。生産管理を徹底し品質の高位平準化を図り、全国最大の玉ねぎ産地を形成、単位当たり収量・生産者の農業所得ともに全国平均に比べて高水準を確保している。

・受賞者の特色

（1）生産管理・高位平準化への取組

「質と量」の向上を目指し、根切り技術や定置式タッパーの開発などの技術向上により、単収や生産性を大きく向上させてきた。令和2年に設立された「きたみらいスマート農業推進協議会」に多数の振興会員が参加し、自動操舵トラクターを中心としたスマート農業の導入にも取り組んでいる。

また、過去、玉ねぎ価格の乱高下に苦慮するなか、輸入抑制のための加工業務用出荷を強化し、生食の市場出回り量をコントロールすることで、需要に応じた出荷体制を構築し安定的な市場の形成と経営の安定化を実現している。

（2）振興会青年部との連携

会員の平均年齢は51歳で各地区には青年部が存在。栽培方法の試験や肥料・農薬の効果確認試験を公設の農業試験場等と連携して実施。試験結果や技術情報は振興会にフィードバックされ、振興会全体の栽培技術水準の向上と品質の高位平準化に寄与している。

・普及性と今後の発展方向

産地の未来を見据えた時に必要となるのは、生食と加工、そして輸出を加えたトータルでの安定的な所得確保であるとの考えの下、振興会は100年前から受け継ぐ産地としての責務をこれからも果たしていきたいと考えている。